

祝瓶山山行記録



大石橋



山頂独占

目的地	祝瓶山（鈴振り尾根ピストン）	期 日	平成19年7月16日（日）：終日曇
山行人	五十嵐隆・笠原正雄	特 記	以東岳くずれの朝日連峰南端を歩く

地 点 名	(着)～(発)	記 事
与 板 発	5:00	中之島から高速利用。坂町十字路のコンビニで食料調達。
針 生 平 P	7:45～8:05	徳網集落から更に林道を進み、終点に駐車スペース。途中溪流釣りだろうか、路側に数台あった。軽トラも含めて4台目。走行163km。小雨模様だったが歩き出す頃には上がって来た。記帳建屋に入り登山届記入。
大 石 橋	8:05	すぐに荒川右岸から左岸に掛かる吊橋を渡る。渡し板は6尺幅一枚。
枝 沢 を 渡 る	8:10	2～3mの流れに板が渡してある。無くとも渡れる。山菜小屋だろうか大きな小屋がある。但し看板も無く施錠されている。この先は緑のトンネルの平坦路。
カクナラ分岐	8:20	もう一度流れに靴を入れ、上がってカクナラ・大朝日岳分岐。右折して鈴振り尾根への登りが始まる。
H 8 1 7 ピーク	8:35～8:40	樹林の北側が開けた所で1回目の休み。地図から判断して朝日村との境界となる桧岩屋山を見る。枯れ松葉の絨毯のクッションが心地よい。五十嵐が「大変気持ちいいです」と記録を促す。
落 雷 木	8:50	露出した根張りの階段を登る。登路中央に焼け焦げた木が立っていた。
H 1 0 6 8 付 近	9:40～9:50	根の階段混じりの登りが続く。白毛門の登りを思い出させる。傾斜が緩んだ所で一休みと思っただがなかなか登りが緩まない。ようやくここで休む。
一 ノ 塔 H1239	10:20～10:30	森林限界を経て、大きな岩を登りきって好展望地。時々見え隠れする白太郎山、徳網山を同定する。全く山奥深い感じがする。大朝日等は雲の中だ。
祝 瓶 山	10:55～12:25	15分前に右に降りる大朝日岳への縦走路がある。左に傾斜するトラバース道を進み到着。誰も居ない。回りは乳白色。やや強い風も時が経つにつれて弱くなって来た。酒を飲めない五十嵐はすることが無く昼寝を決め込む。
一 ノ 塔	12:50～1:00	もう一度地図を広げる。徳網山の上奥に飯豊が雲の切れ目から僅かに見えた。方向からして杵差岳と思われる。五十嵐のカメラが不具合。
休 む	1:20～1:25	ミズナラの木の下で休む。
針 生 平 P	2:40	軽トラが1台だけ残っていた。他の車は溪流釣りだったのだろうか。上半身裸になって流れに戻り、きれいな水で体を拭く。
柏崎地震を知る	3:55	ラジオを聴いていなかった。関川村「ゆーむ」手前で妻から電話が入る。

土曜日と海の日とで3連休となる。五十嵐CLで1泊の以東岳が計画された。しかし台風接近で取りやめとなった。土曜日は単独で北五百川から粟ヶ岳に出掛けたが、連休最終日のこの日は台風も通過後で山に入れそうなので五十嵐と連絡を取り、彼の選択でこの山に出掛けた。天気が優れないせいか、他に入山者は無かった。鈴振り尾根は明瞭で迷う心配は無い。山頂が近くなるとやや草が覆う道となるが、何と言っても枯松葉の道は快適そのものだ。